

様式第 1（第 6 条関係）

議会報告会等実施報告書
文教福祉常任委員会

開催日時		令和 7 年 1 月 1 6 日（木） 午前 1 0 時 0 0 分 ～ 1 2 時 0 0 分
開催場所		大口町役場 3 階 第 5 委員会室
出席議員		委員長 仙田 王 一（趣旨説明） 副委員長 酒井 一平（司会・進行） 委員 佐名かよ子 委員 江口 昌史 委員 飯田 正志 委員 大竹 伸一 委員 社本 與七 委員 齊木 一三
参加者数		公益社団法人大口町コミュニティー・ワークセンター 会員 8 名 事務局 2 名
実施内容	議会報告会	
	意見交換会	「予防福祉」の実践、それは健康を意識する、人と接する、生きがいを感じる、そして自分の居場所・役割を持つことであるが、あらかじめテーマを決め、会員の皆さんがどの様に実現して見えるか意見交換を行った。
要望・提言等		別添 参照
その他特記事項		コミュニティー・ワークセンターでの利他的で規則的な活動の提供が「予防福祉」実践に寄与していることに気づかされた。 今後益々、高齢者の方々を中心とした、身近な活躍の場所となることを期待する。

令和 7 年 1 月 2 7 日

大口町議会議長

江口 昌史 様

議会広聴広報常任委員会委員長

松本 佳子 様

文教福祉常任委員会 委員長 仙田 王 一

文教福祉常任委員会 意見交換会

令和7年1月16日 10時00分～

大口町役場3階 第5委員会室

今年度の文教福祉常任委員会の活動テーマは、「予防福祉」であり、高齢者の方が「介護にならないため」を考えるのではなく、「これからも健康で過ごせる状態」を維持するため、何が大事であるのかを考えることである。

「予防福祉」には、健康を意識する、人と接する、生きがいを感じる、そして自分の居場所・役割を持つことが大事であると言われている。今回は、特に定年後に孤独となりやすい男性に焦点を当て、こうした「予防福祉」を既に実践されていらっしゃるコミュニティー・ワークセンター（以下「CW」という。）の皆様と意見交換をさせていただき、当委員会の活動テーマである「予防福祉」の新たな気づきの発見につなげることを目的とする。

1. CW からの参加者について

下記 8 名の方に参加いただいた。

会員	年齢	職種内容等	会員	年齢	職種内容等
A	77 歳	草刈り	E	70 歳	デイサービス送迎
B	70 歳	産業廃棄物分別作業	F	77 歳	剪定
C	87 歳	有機資源保管所管理	G	75 歳	大口役場宿直
D	81 歳	剪定	H	78 歳	町民会館管理

2. 意見交換について

あらかじめテーマを決め、そのテーマに対して行った。

テーマ	状況及び取りまとめ
① 登録されたきっかけは	何もやることがなくなったから 友人からの誘い、CW からの勧誘などから説明会参加 世間との接点を切らさない 自身の趣味を生かした(剪定) 金銭の貯えが目減りしてきた
② 作業のペースは、週に何日・何時間程度でしょうか	1回～5回／週まで、職種や本人のペースに合わせての就業ペース
③ もし登録していなかったら、どのような生活を送られているでしょうか	インドア生活中心になっている 施設のお世話になっているかも 趣味(音楽・DIY・俳句など)中心にした生活

④ 日常、健康に対して、どのようなことを心がけていますか	体を動かす30分程度の散歩 ラジオ体操(午前6時30分)、掃除など 歌を歌う腹筋を鍛える 身体、頭を元気に、チャレンジ精神、刺激を与える テレビ鑑賞やゲーム 仕事で動くこと(真夏作業や宿直は、健康に対してどうか?) 歩く姿勢(背筋を伸ばす)をただす 通学団の付き添い 持病があるので、夏の暑さに気をつけている
⑤ 登録されて健康的に変わったこと、良かったこと	時間管理で生活にメリハリがある➡規則正しい生活 仕事で考える、外仕事で日光を浴びる 仕事が楽しいため前日からそわそわしている 30分前には職場へ行き、トイレなど掃除をしている 身体を動かすことで体重が減った(90kg位から➡70kg台へ) 大口町内を北から南と回っており、地理がわかるようになった 人との会話が増えた
⑥ その他での活動はされていますか(地域活動やボランティアなど…)	区の役員、お寺の役員など(過去も含む) 地元区議員経験者との付き合いの継続で、地域パトロール、ゴミ拾いなどをやっている 独居者訪問により、話し相手をしたりしている 地元でコーラスサークルをしている 五条川の草刈り作業
⑦ 何歳まで続けられますか	健康なうちは続けたい(慣例は80歳定年) 高い場所にも上れるので、その間は続けたい 今は90歳、越えれば95歳、100歳へ
⑧ 何か目標はお持ちですか	奥さんより先にピンピンコロリで 奥さんと旅行 楽しみを持つ(活性化する) 自分一人で何でもできるようにしている 仲間と週1回、喫茶店で話をする キャンプ 今の身体の状態を続けたい スマートフォンの使い方を深めたい 元気を心がけ、くよくよしないように健康維持 自身の趣味に対して、どう答えていくか(金銭的にも)

⑨ CW での活動は、あなたにとってどのような存在ですか	必要とされる間は続けたい 目標達成の糧 縁あって知り合った、コミュニケーション、モチベーション維持の場 なくてはならないもの(不特定多数の方とのコミュニケーション) ありがたい、助かっている 気晴らしの場 気軽にコミュニケーションの取れる場所
⑩ 健康のきっかけづくりにあったら良いなと思うこと	積極的でない人にも、とっつきやすい機会を 奥さんとの会話、旅行など目標づくり 仲間づくり(一人では難しい) 会員相互の顔合わせ、親睦会など 高齢者の居場所になるところ

3.意見交換のまとめ

会員の方は、やはり定年後には、メリハリのある時間の使い方、コミュニケーションづくりの必要性、自分自身の特技を生かしたり、趣味への投資などのために、入会を決められている。就業パターンも、自身のペースに合わせて決められることも入会された要因と思われる。もし登録していなかったらという問いに関して、自身の趣味中心の生活を過ごしていく方の答えが多かったが、中には施設のお世話になっていると答えられた方もいた。

健康に対しては、散歩、ラジオ体操や歌を歌って腹筋を鍛えるなど、各自にあったことや、各自の目標に向けたことなどに取組まれ維持されている。

これは、規則的な生活を維持できている事や自身に期待されていることで、自身の役割を感じることができ、モチベーションになっているのではと推測する。そして働ける間は続けたいという思いにつながり、趣味などの新たな目標につながっている。

最後に会員の方にとって CW の存在は、感謝の言葉にもあるように、自身にとってはなくてはならない居場所であり、役割のある場所となっている。

4.所感

CW においては、地域での関係とは違う人間関係の構築をしている。例えばお互いを思い合いながら、ルールの中で、組織的に活動していくことが、定年まで働かれていた職場の雰囲気と類似するものがあり、自身で考え対応することで、自身の役割となり、それを自身のペースでこなす。そのような環境が、健康維持に結び付き、新たな目標へとつながる循環があると感じた。

これは豊中市の「豊中あぐり」を視察した際に、お話を聞き、会員の方の雰囲気から感じたことと類似する。

人生100年時代、企業の事情もこれからはしばらく65歳定年が続くが、再雇用で70歳まで仕事をする環境になると考える。そうなると、CW を利用される方も70歳以降からとなる可能性があるが、職種や個人の体力など、現

実的には難しい業種もあるので、このような方々に、CWのような、多様な分野の仕事が紹介できることで、自身の目的やペースによって、こなせるような選択ができる窓口を充実させることが有効であると感じた。

最後に、改めて高齢男性の方の「予防福祉」について、「健康を意識する、人と接する、生きがいを感じる、そして自分の居場所・役割を持つことが大事である」と言われる理由を認識することができた。現状は色々な高齢者の集まりがある中で、規則的でかつ、利他の気持ちで活動されていると思われる。そこに自身で考え、自身のペースを加えられる、そんな居場所の必要性を気づかされた。

以 上

令和7年1月16日

文教福祉常任委員会